

優秀賞（NHK横浜放送局長賞）

## 負けるが価値

横浜市立あかね台中学校3年

よしおか ひろき  
吉岡 大輝

部活動でのスポーツにおいて、勝つことが全てなのだろうか。僕は違うと思う。そう思った敗戦経験を書こうと思う。

僕はソフトテニス部に所属している。先日、中学最後の個人戦が行われた。僕は、市大会進出を目指して日々練習していた。市大会に出場するためには、地区大会で4回勝つことが必要だった。そして地区大会当日、僕の心には、絶対勝ちたいという思いと、負けることへの恐怖の念があった。1回戦は緊張しながらも快勝し、2回戦に進んだ。ゲームは拮抗した展開となり、ゲームカウント2対2のファイナルゲームに入った。しかし、6対7と先にマッチポイントを握られてしまった。負けるのが怖かったから、負ける覚悟はできていた。でも、負けたくないという思いも強かった。もう恐怖心はなかった。でも、決して諦めたり、手を抜いたりしてはいなかったと思う。ポイントが始まった。味方のレシーブが相手の足元に突き刺さる。詰まった当たりは宙に高く浮いた。打つ体勢はもうできていた。しかし、その時だった。なんとボールは着地とともに角度を変え、僕から逃げるように弾んだ。ラケットを伸ばす。しかし、届かなかった。ボールが2回目の着地音を立てた。ゲームセット。その瞬間、悔しさがこみ上げてきた。でも同時に、晴れ晴れした気持ちもあった。自分でも、なんでだろう、と思った。

たぶん、それは最後まで決して諦めず、自分のやることを貫き通したからだと思う。2回戦敗退という形にはなってしまったが、やることはすべてやり切った感じがした。だから、この経験は成功体験だと思う。

スポーツをする人の中には、「勝つことがすべてだ」と思っている人もいる。悪いとは言わない。いや、勝つことにすべてを懸けるから、全力を注ぐから、

勝負が面白くなる時もあると思う。だが、それだけに気を取られてはいけない。「勝つことがすべてだ」と思うと、どうしてもプレッシャーや焦り、不安など、マイナスな感情が出てしまうものである。僕も以前まではそうだった。失敗ばかりで、負けることも多く、勝負をあまり楽しめていなかった。

しかし、ある時気がついた。自分の中のマイナスな感情に押され、勝負を楽しめないなんて、なんてもったいないことなんだ、と。そこから考えが改まった。「負けることにも意味があるんだ。勝っても負けても、価値のあるものにしよう。」と思うようになった。すると、肩の力が抜け、勝つこともだんだんと増えてきた。そして、程良い緊張感の中で、勝負を楽しめるようになった。

負けることにも意味があり、価値のあるものにするのが大切だ、と書いてきたが、価値のある勝ちも負けも、努力なしには成り立たない。生半可な気持ちでは、得られるものも少ないし、結果も中途半端になる。全力でやるから、勝負は楽しいのだ。

最近、過度の勝利至上主義が、行き過ぎた指導を生むケースがよく見られる。さらに今、部活動のあり方が問われている。だからこそ、「勝ち」ではなく、「負け」に「価値」を見出すことが、今一番大切なことなのではないかと思う。

僕は間もなくソフトテニス部を引退する。なので、「価値のある負け」が大切だと思った経験を、後輩たちにも話しておきたいと思っている。そして、この経験を糧にして、いつかは勝負の世界で、大きな勝利、「価値のある勝ち」を、自分の手で掴み取ってみたいと思う。